



## 小学生と高齢者で 「三永のみんなでゆるスポーツを楽しもう会」

### ◆日時

2026年2月24日(火)  
10:00~11:15

### ◆主催

東広島市立三永小学校

### ◆共催

広島大学D&I推進機構

### ◆場所

三永小学校体育館

### ◆参加者 65名

### ◆実施目的と概要

三永小学校3年生の児童が、地域の高齢者に幸せになってもらうことを目指して、三永の名物を取り入れた「ゆるスポーツ」(だれでも楽しめる新しいスポーツ)を独自に考案し、高齢者をゆるスポーツ大会に招き、いっしょにプレーしました。

ダイバーシティ研究センターは、企画の段階から三永小学校に協力しました。大会後、参加者にインタビューを行って、身体の所作と造作が大きく異なる小学生と高齢者が、ゆるスポーツをいっしょに行うことでどのような効果があるのかを調査しました。

### ◆レポート 背景：

ダイバーシティ研究センターでは、2024年から「『ゆるスポーツ』からみるスポーツの包摂性についての研究プロジェクト」を行っています。本イベントは、「包摂的なスポーツが異世代交流にもたらす作用についての研究」として、三永小学校と協力して実施したものです。

三永小学校3年生は、総合の学習で「幸せってなんだろう」について考え、地域の高齢者に笑顔になってもらおうと「ゆるスポーツ大会」を企画しました。ダイバーシティ研究センターは学習に協力すると同時に、活動を調査しました。

### 準備：

大会1か月前の1月23日(金)に、当センターから教員が小学校を訪問しました。児童が考案したオリジナルゆるスポーツを審査するためです。子どもたち8班それぞれが、地元の風物を取り入れて考案した競技を発表し、教員で3つの競技を選びました。選ばれずに泣いた児童は、「この世の厳しさを学びました」(児童振り返りシートより)と振り返っています。児童からの質問で多かったのは「負けても楽しくするにはどうすればいいですか」でした。

その後、児童は、競技をブラッシュアップし、用具を作り、ポスターを作り、地域センターで広報活動をし、案内板を作り、ルールの説明文を練り、保護者相手に予行演習をして、当日を迎えました。



「競技案審査会」

8つの競技案のプレゼンを聞き3つを選出